

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年11月5日(金)

その2

◇ 白亜の校舎⑤ すべては「安全のため」



安全ネットを纏った校舎。
景色を切り取ると、場所が特定できないほど「すっぽり」である。



前



ネットで隠れ、外観からは分かりにくいですが、^{とび}鳶職人が行う仕事を見ていると、その仕事ぶりの丁寧さや、技の細かさに驚かされる。すべては「安全のため」。これに尽きる。

後



例えば、**黄色**の部分。学校はオフィスビルのような立方体ではなく、所々に「出っ張り」がある。この箇所への作業も可能となるように足場を組み、組み上げた足場とネットを隙間なく結び付けていく。当然、結束バンドひもを使っているかと思いきや、ナイロン製の「編み込み紐」であった。

前



紐結び作業について班長に伺うと、「数を結ぶのは大変だが、慣れれば時間はかからない」、さらに「紐の方が圧倒的に強度が高い」とのこと。加えて、「柔軟な紐は適度な【遊び】があって、強風等の力を受け流す」。安全性を考えれば、結束バンドに比べて何倍ものメリットがあるのだ。

後



ところが、その数たるや、100や200どころではない。縦列だけで50本あることから、数千本、いや、万の桁に乗っているかもしれない。これを一本、一本手作業で結束していく。実際、紐の結びだけで、教室棟の校舎の北側だけで終日、南側も同様に丸一日作業を行うほど時間を要す。

すべては「安全のため」。高所作業は「洗浄」、「検査」、「補修」、「塗装」など多岐にわたる。鳶職人ほど高所は慣れていない専門職が安心して仕事をするために、必要不可欠な安全ネットなのだ。

足場の細部を見ていくと、職人が行う「安全への対応」がよく分かる。
写真を見ながら説明していこう。



<その① 安全ネット装着前>

足場の下部に「金網(黄色破線)」が確認できる。安全ネットを掛けると、外観からは全く認識できないこの金網は、すべての足場の下部に設置されている。

この金網により、外部からの侵入を防ぐとともに、工事中に部品や工具等が落下した場合も、外に飛び出すことを防ぐ。子供の多い学校での2次災害防止策は、大変ありがたい。



足場の主体は金属パイプであるため、空間が多い。よって物が落下する可能性は高くなる。そうした事故を防ぐため、様々な安全策がとられていることが分かった。



通路側面には板(茶色)をとりつけ、誤って工具や部品を落とした場合の転がり落下を防いでいる。

たてや建屋と足場は必ず隙間ができるのだが、所々にネットをかける(赤➡)ことで安全性を高めている。



<その② 安全ネット装着後>

足場の入り口は「プッシュボタンロック式錠」の付いた扉があり、ここから現場に入る。外部からの侵入を防ぐのがねらいだが、子供が興味半分に迷い込むなどして巻き込まれる不慮の事故を防いでくれる。

紐結びの仕事をされている場面に遭遇したので、許可を得て撮影させてもらう。結びは内側から。そして、腰からつな繋がる命綱。

すべては安全のため。

